

東北大学理学部天文学教室の移転

田 村 眞 一

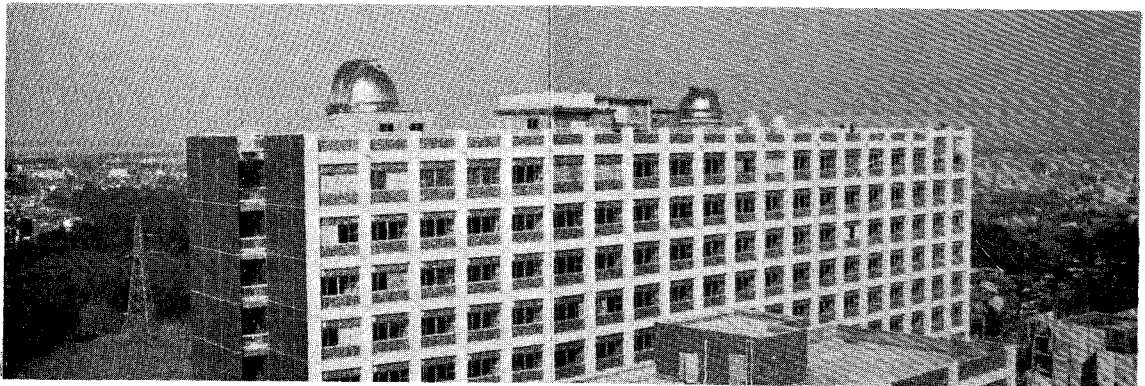
東北大学理学部天文学教室が「仙台市 荒巻字 青葉」(通称、青葉山)に移転しました。理学部全体が東北大学移転整備計画に従って過去数年にわたり順次旧片平キャンパスから青葉山に移転中でしたが、天文、地球物理、物理、物理第3の物理系4学科のA, B, C, 3棟のうち8階建のビル(A棟)が完成し、今年2月末から3月末までの1ヶ月間に4学科が引越しました。

天文は空に近いところがいいだろうという理由(?)で、教室全体(2講座)が最上階である8階を占拠しています。屋上には2本の赤道儀のため5mと3.5mのドームがあり、子午儀だけは地上に観測室が建設されました。

青葉山キャンパスには理学部、工学部、薬学部があり、近代的建物が林立しています。晴れた日には仙台湾、太平洋を望むことが出来、眼下に仙台やその周辺部の市街地がみえます。仙台を訪れたことのある方は青葉城址を見学していることでしょうか、青葉山キャンパスは更に奥の方になります。(図参照) 近くには宮城教育大学、宮城県教育研修センターがあり、やはり屋上にドームがみられ比較的小さいドームながら、あたかも青葉山全体が大観測所であるかの様子を示します。初めて青葉山を訪れこの光景に接する天文屋さんはあれこれのアイデアに思いをめぐらすことでしょう。

片平キャンパスは仙台市の中心部にあり繁華街にも近く何事にも便利でした。又東北大学の大型計算機センターも片平キャンパスにあり、計算センターに出かけたその足でコーヒーを飲みに出かけ本屋に寄り、仙台一の繁華街である東一番丁通りを美人に会えることを期待しながら歩いてみるのも楽しみだったものです。某先生は毎日歩いて近くの整形外科に通いマッサージを受けていたようですが、青葉山キャンパスに移ってからはどうして

向って左側が西、背景は仙台市街



いるのでしょうか。

すでに引越し後約2ヶ月が過ぎようとしております。便利だった片平キャンパスの生活ともかなり縁が切れ、いろいろな意味で不便な青葉山キャンパスの生活にも不便は不便なりに慣れてきました。不便だということは市街地と計算センターから離れていることが主な理由ですが便利になった点もいくつかあります。①片平キャンパスでは別棟だった図書室が同じ階に出来、書庫から借りだすにも、新着雑誌をみるにも便利になったこと、②天文関係の講義は、ほぼ同じ階の講義室で行われること、③生協が割り合い近いこと、④教室の構成員が同じ階に集中しコミュニケーションに便利になったこと等です。私自身は1日にかならず1度エレベーターを利用せずに階段を歩いたり走ったりしながら昇ってみて、その日の健康状態をチェックしていますが、ほぼ1ヶ月の間かなり足が強くなったような気がします。これも8階に住んでいることの利点でしょうか。

ともあれ教職員、院生、学生一同(もちろんオーバードクターも)、新天地での教育・研究活動を4月から以前のように開始しましたが、今度の天文学教室の移転がそれぞれ一人々々にどんな影響があったか十一の結果はもう少し(せめて十年ぐらい)後にならないと評価出来ないでしょう。

